ペル－内政・外交（２０１４年３月）

１　概要

●コルネホ首相の所信表明演説が行われ，新内閣が重点的に取り組むべき点として教育，保健，治安，投資促進の４つを掲げた。同内閣は国会における３度目の投票で信任された。

●リマ市のラ・ビクトリア区にある旧中央卸売市場が完全に閉鎖し，取壊し作業が行われた。

●違法鉱山業者による抗議活動がリマ他，国内各地で行われた。

●ウマラ大統領はバチェレ・チリ大統領就任式出席のためにチリを訪問。

●ペルー・チリ領海境界線の基点の確定にかかる一連の作業が終了した。

●リバス外相は，チリで開催された南米諸国連合（ＵＮＡＳＵＲ）緊急首脳会合に出席した。

●ミード墨外相が当地を訪問し，第９回ペルー・メキシコ政策協議会合が開催された。また，マチャド・ベネズエラ野党議員が訪問し，与党を除く国会外交委員会メンバーとの会合を行った。

●左腕の麻痺を訴えたフジモリ元大統領は，検査の結果，軽度の脳梗塞にあることが判明した。

●フジモリ元大統領に対する強制不妊措置疑惑で，人権擁護官は本疑惑を不起訴とした検察の調査が不十分であった点を指摘した。

２　内政

（１）コルネホ首相の所信表明演説及び信任投票

　１４日，国会本会議にて，コルネホ新内閣の所信表明演説が行われ，１７日に行われた通算３度目の投票により，右内閣が信任された（賛成：６６票，反対：５２票，棄権：９票）。演説の中でコルネホ首相は，同内閣が重点的に取り組むべき点として，教育，保健，治安，投資促進の４つを掲げた。

（２）旧中央卸売市場の完全閉鎖

　１６日，２０１２年１０月に移転が開始された，リマ市ラ・ビクトリア区の中央卸売市場「ラ・パラーダ」の完全閉鎖が完了し，リマ市によって旧卸売市場の取壊し作業が行われた。移転開始後も旧市場に残っていた卸売人の大部分は，サンタ・アニータ区の新卸売市場に移転したが，一部の卸売人は，閉鎖された旧卸売市場の周囲や向かいの小売市場で商業活動を行うことになった。旧卸売市場跡地は，今後公園として整備される計画で，年内（９月頃まで）には完了予定。

（３）違法鉱山業者による抗議活動

　２０日～２７日，違法鉱山業者の合法化にかかる手続き期間（４月１９まで）の延長を求めて，プノ州及びマドレ・デ・ディオス州出身の違法鉱山労働者等がリマ市内において抗議活動を展開し，暴徒化した一部の労働者と治安部隊との衝突により，逮捕者及び負傷者が発生した。また，同時期にイカ州，アレキパ州，プノ州でも鉱山労働者による道路封鎖等が行われた。

（４）ウマラ大統領支持率（括弧内は前回結果）

ア　ダトゥム社：２月２８日～３月５日実施，全国（対象１２００名）

支持　２４％（３９％）　　不支持　７１％（５６％）

イ　アポヨ社：１１日～１４日実施，全国都市部（対象１２０６名）

支持　２５％（３３％）　不支持　７０（６０％）

ウ　Ｇｆｋ社：１８～１９日実施，リマ首都圏及び全国主要都市（対象１２９７名）

支持　２０％（２１％）　不支持　７６％（７１％）

３　外交

（１）シプリアーニ枢機卿のバチカン経済審議会メンバー就任

　９日付当地各紙は，シプリアーニ枢機卿がバチカン経済審議会のメンバーに任命された旨報じた。本年新設された同経済審議会は，８名の枢機卿と７名の世俗の代表から構成され，任期は５年となっている。経済審議会のメンバーは, 定期的に会合を開き，バチカンの経済活動に関する報告書の作成や分析を行う。最初の会合は５月に予定されている。

（２）ウマラ大統領のチリ訪問

　１０～１１日，ウマラ大統領は，バチェレ・チリ大統領就任式出席のためチリを訪問し，バチェレ大統領の他，同就任式出席のためにチリを訪問したバイデン米副大統領，タヤーニ欧州委員会副委員長と個別に会談した。バチェレ大統領との会談では，両国が将来に向かって二国間関係を強化することで一致した他，両国の領海境界線画定にかかるＩＣＪ判決で両国が約束した，判決の履行を引き続き進めていく意志を確認した。バイデン米副大統領との会談では，両国の治安・防衛分野における協力にかかる新たな合意書の精査を行った。タヤーニ欧州委員会副委員長との会談では，ペルー国民に対するシェンゲン・ビザ免除に向けた支援について言及した他，欧州及びペルーの中小企業の国際化，インフラ分野における欧州の対ペルー投資の促進，観光面における協力，及び衛星分野における双方の協力強化について話し合った。

（３）リバス外相の南米諸国連合外相会合出席

　１２日，リバス外相は，チリで開催された南米諸国連合（ＵＮＡＳＵＲ）緊急首脳会合に出席した。ベネズエラ情勢について話し合うべく開かれた同会合では，ベネズエラの政治勢力間の対話を支援するための委員会の創設を決定した。

（４）ミード墨外相の当地訪問

　２１日，メキシコのミード外相が当地を訪問し，当国外務省にて，両国の関係強化に向けた政治的対話及び協力の強化を目指す第９回ペルー・メキシコ政策協議会合が開催された。会合後，両外相は，二国間関係における共通目標及び様々な合意事項を盛り込んだ共同宣言を発表した。また，同日夜ミード墨外相は，ウマラ大統領と会談し，両国の発展と貿易関係促進に向けた政治的対話を通じた二国間関係と協力促進を強化する，ペルー・メキシコ戦略的連携協定について話し合いを行った。

（５）ペルー・チリ領海境界線画定作業の終了及び報告書への署名

　２５日，２月１７日より行われたペルー・チリ領海境界線画定にかかる一連の作業が終了し，ペルー外務省にて，両国の代表者が，右共同作業の結果確定した領海境界線の経緯度を示した作業報告書への署名を行った。また，今般ＩＣＪが決定した領海境界線の始点（ＰＩＦＭ）から基点Ａ，Ｂ，Ｃを通る領海境界線の製図方法を示した地図が承認された。右地図には，領海境界線のコースと両国それぞれの海岸の基準点とその経緯度が示されている。今後は正式な登録を行うために右文書を国連に送り，最終的に全ての手続きが終わった時点でＩＣＪに通知することになる。

（６）コリーナ・マチャド・ベネズエラ野党議員の当地訪問

　２５日，ペルーを訪問したマリア・コリーナ・マチャド議員は，ペルー国会にて，マルティン・ベラウンデ国会外交委員会委員長を始めとする同委員会に属する各会派の議員との非公開会合に出席した。同会合でマチャド議員はベネズエラの悲惨な状況について説明すると同時に自身が未だベネズエラの国会議員であり続けている旨述べた。なお，今般，与党国民主義党だけが右会合にも参加しなかった上，与党のオタロラ国会議長は，マチャド議員からの会談の要請を他用を理由に受けなかった。

４　フジモリ元大統領関連

（１）フジモリ元大統領に対する「チチャ」紙買収問題にかかる公判

　６日（第１７回公判）：証人として出廷したベルガミノ元国防相は，フジモリ元大統領の指示で国家諜報局（ＳＩＮ）に軍の資金を融資したと証言。

　１３日（第１８回公判）：証人として出廷したベルガミノ元国防相は，国防省の資金からＳＩＮに月額８０万ソルを融資した旨証言した。他方，右資金がフジモリ元大統領の２０００年の再選活動や「チチャ」紙買収に使用されていた点は知らなかった旨主張。本公判には，証人としてサウセド元三軍統合司令官の出廷が予定されていたが，同人が出廷しなかったため，公判は中断した。

　１９日（第１９回公判）：証人として出廷したサウセド元国防相は，フジモリ元大統領の指示で，国防省の資金から毎月５５万ソルをＳＩＮに送金した旨証言した。他方，右資金の使途については知らなかった旨主張した。

　２８日（第２０回公判）：証人として出廷したビヤロボス元ＳＩＮ官房長は，国防省はＳＩＮに対して１９９８年には月額８０万ソル，１９９９年には２百万ソル，２０００年には１千万ソル融資し，資金はモンテシノス元ＳＩＮ顧問に渡されたと証言した。

（２）フジモリ元大統領の入院

　１４日，フジモリ元大統領は，９日から左腕の麻痺や腕の力が入らない等の症状を訴えていたため，リマ市リンセ区のラ・ルス・クリニックに入院し，検査の結果，軽度の脳梗塞であることが判明した。今般，元大統領には，小さな脳梗塞が２箇所見つかったが，症状は落ち着いており，記憶もしっかりしていることから，翌１５日には同院を退院し，収監先に戻った。

（３）フジモリ元大統領に対する強制不妊措置疑惑

　フジモリ政権時代に貧困政策の一環として行われた，家族計画プログラムで，同プログラムの対象となった女性に対して強制的に不妊措置が行われたとする疑惑について，ペルー検察庁が１月に捜査の結果，右証拠が見つからなかったとして，フジモリ元大統領及び当時の保健相に対する強制不妊措置疑惑を不起訴とする決定を下した件で，人権擁護官は，本３月，同判事による捜査の問題を示した書簡を提出し，本件を不起訴とした捜査が不十分であった旨指摘した。（了）